

第2回 総合計画審議会 会議事録（要旨）

1 会議名

第2回 総合計画審議会

2 開催日・場所

開催日時 平成21年9月30日（水） 午前9時30分から午前10時40分

場所 須坂市消防署3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

遠藤 守信委員、小澤 吉則委員、土本 俊和委員、小山 せつ子委員、勝山 敏雄委員、和田 主税委員、吉池 武委員、清水 己佐委員、荒井 清治委員、越 信子委員、黒岩 七女委員、山際 荘一委員

欠席者

日向野 靖司委員、石原 洋子委員、太田 哲郎委員、神林 清治委員

(2) 幹事

副市長、総務部長、健康福祉部長、市民共創部長(代理)、産業振興部長、まちづくり推進部長、会計管理者、水道局長、消防長、教育委員会次長、

欠席者

議会事務局長

(3) 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員

4 配布資料

資料1：須坂市の統計データ

資料2：須坂市の財政状況

資料3：須坂市の人件費について

資料4：須坂市の事業概要 平成16～20年度に行った主な事業

資料5：先進的な取り組み 一覧

資料6：共創の取り組み 一覧

資料7：目指そう値実績

資料8：第四次須坂市総合計画・後期基本計画未着手事業一覧

資料9：実施経過報告

資料10：参加者名簿

資料11：総合意識調査配布調査表

資料 12：須坂市の人口推計

資料：第五次須坂市総合計画 基本構想骨子（案）について

5 審議状況（会議事項）

(4) 審議状況

① 開会

政策推進課長

ただいまから須坂市総合計画審議会を開会いたします。

審議事項までの間、進行役を努めます。よろしくお願ひいたします。

本日の会議について、日向野委員、石原委員、太田委員、神林委員から、欠席の連絡を受けておりますのでお知らせいたします。

会議次第に沿いまして会長よりご挨拶をお願いします。

② 会長あいさつ

会長

国民が新しい政権を選択し、政治や行政の仕組みが大きく変わろうとしている。その中で、審議会のあり方が問題視され大きく議論を巻き起こしている。しかし、その中で少なくとも地域の審議会は市民や住民が参加し、市民目線でしっかりした議論される場となってきている。

この場でも積極的に発言していただき、市民の手作りの計画を作っていきたいと思っている。須坂市の将来を描く時で、手作りで市民目線でしっかり審議していただきたい。

本日は議会中のため、10時30分までの短い時間で効率的にご審議いただきたい。

政策推進課長

規定に沿いまして、進行を会長にお願ひいたします。

③ 審議事項

(ア) 市政の現状について

会長

では、次第の項目に沿ってすすめてまいります。審議事項（1）市政の現状について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局より 資料1～8を一括説明】

会長

ただいま事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたら、お願ひいたします。

ないようでしたら、最後にも一括して質問ご意見を取りますので、その際にご発言下さい。

(イ) 117 人会議実施状況報告

(ウ) すまい調査、総合意識調査実施結果速報

会長

続きまして、審議事項（２） 117人(いいなにんかいぎ)会議実施状況報告及び（３）すまい調査、総合意識調査実施結果速報について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局より 資料9～11を一括説明】

会長

ただいま事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

資料5の須坂市の先進的取り組み、県や国の補助事業も入っていると思うが、須坂市独自で行っているということで一覧にしているかと思う。国や県などの共創的な助成財源をとってやっている事業などは、その旨わかるように印などをつけておくと判別つくと思う。地域の力の対応がみえてきて良いと思う。

副市長

事業はほとんどが市で単独に行っている事業である。一部中には国県の補助事業もある。須坂市産業活性化戦略会議や産業コーディネーターアドバイス事業、すざか竜の里マラソン、働きざかりの健康セミナーなど、ほとんどは市が単独独自に行っている。もう一度チェックをして、国県の財源を取り入れながら、市独自の考えで実施している事業をわかりやすくマークする。市だけでなく市民とも積極的に採択申請した事業である。

委員

資料 11 の市民総合意識調査について、自由記述意見欄があるが、記述内容を全て示していただきたい。

調査前半には、数字統計的に集計される選択項目があるが、自由記述項目に回答されている意見の中から市民の本音が抽出できる可能性が高いので、自由記述内容を集約分析するとともに、回答内容をそのまま示していただきたい。第四次総合計画に対して、第五次総合計画策定の方向性が何か示されるかと思う。

事務局

自由記述も全て示した資料を提出する。

委員

この市民総合意識調査の集計が出ることにより、資料7の目指そう値の実績の中で「未定」となっている部分が数値も入るということで良いのか。

事務局

総合意識調査の集計値が目指そう値の実績となるので、「未定」部分に入る。

委員

資料5や6の一覧で、市民から会費や負担金を徴収して行っている事業と事業費の負担を取らずに市の予算のみで行っている事業がわかるように示していただきたい。

これだけの行事をやるとお金がかかる、受益者負担、講習料、参加者負担の有無を示していただきたい。

会長

今出た意見を資料にどのような形で盛り込むか事務局で検討していただきたい。

(エ) 須坂市の人口推計

会長

続いて、審議事項(4) 須坂市の人口推計について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局より 資料12説明】

会長

○ 人口推計について

少子化・高齢化社会は須坂市に限らず、日本全体が人口減少の傾向である。新しい政権になり、少子化に歯止めがかかり、人口減少を少し抑えられるかは様子見の状況である。

人口が減少するという推計を示していただいたが、資料1には須坂市の借金の推移とともに人口推計のデータをみると、市民一人当たりの借金額はかなり減ってきているという認識で良いのか。一番多い時は平成15年度の39万3千円/人、一番少ないのは平成20年度の31万5千円/人となっているが、人口の減少を考えると、かなり借金が減少しているようだが、市政の努力の表れかと思えるが、人口と借金額の推移との相関関係などで市政の成果についても示していただきたい。このように、様々な視点から示し、今後を考えていければと思う。

(オ) 基本構想の骨子案について

続いて、審議事項(5)の基本構想の骨子案について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局より 資料説明】

会長

基本構想の骨子案についてご意見をいただきたいと思います。

ここは基本構想の核となるが、4ページの基本理念の中で3つの概念「安心・安全」「元気」「交流」を挙げているが、第四次総合計画・後期基本計画策定時では他自治体に先駆

けてあげたものだが、今ではどこの自治体でも述べている。市民住民としてこれからも守っていかねばならない須坂市の特徴や誇り、計画の意義などが表現できるものとすべき。子々孫々まで受け継がれる、町や地域の活力につなげるコアコンピタンスを表現して欲しい。それは一体何かをみんなで考え、一人ひとりの人生や生活の視点で見かたは異なると思うが、美しい自然、市民同市の心のつながり、共同体、産業観光商業の比較的バランスがとれている住みやすい地方都市、文化意識高い住民意識など須坂市の良い面を抽出できればと思う。

ダイジェスト版も作成し、市民の皆さんにわかりやすく方向性をアピールしていただきたい。

事務局

第四次総合計画後期基本計画を策定した際に、作成したダイジェスト版のように作成する予定である。

会長

時間も限られているので、戻ってからも気づいた点があれば事務局に意見として示していただきたい。

委員

今回この骨子に沿って、まちづくりの大枠となる基本構想を作るが、これをもとにその下に産業ビジョンなどを作る予定はあるか。

政策推進課長

この下に、基本計画、実施計画とだんだん細かく事業内容を作っていく。

委員

そのようなものに、直結してくるものに7番の大綱というものとなるが、ここに、具体的に「市民はどうすべきか」「産業界はどうすべきか」「行政はどうすべきか」という役割分担を示すと思うが、これを見て市民や企業が自分の計画だと認識すると思う。資料5や6で須坂市のこれまでの取組み一覧を提示していただいたが、そのようなこれまでの須坂市の積極性を充実させ、今後の取組みを具体的に示すことで将来ビジョンも明確に示せる。

会長

個々の取組みをみると須坂の良さや特色がみえるが、総合的にみる必要がある。横串を刺すような提言が必要。例えば、須坂病院や高等学校などは地域の宝としてどう活用していくか。縦割りではなく、横の連携で良さを充実させるか。もちろん個々はあるが、まとめる発想。総合的な所見がつくとわかりやすい。

総合的にも良さや特色が出るように横串を刺すような提言となり得る計画としていた

だきたい。

基本構想骨子案の項目の中に、教育についてはないが教育の項目は設けないのか。教育についても総合的に考えていかなければいけない。高校教育についてはどこで示すか。

政策推進課長

6基本目標の中に6つの柱として、教育についても立てていく。基本構想の項目として1つ教育を立ててはないが、施策の大綱の中で教育については示していく。

副市長

教育の問題は、子どもの保育の段階から大学教育、大学との連携まで総合的に考えていくべきことで現在も取組んでいる。今後もその枠組みをどのような形にすべきか課題と考えている。

委員

本日の資料の中でも難しい言葉を使っているものがある。計画で使う言葉は優しくわかりやすい言葉を使っていたきたい。

文章は長くなるかもしれないが、わかりやすさを優先していただきたい。

委員

全体的にこの方向で良いと思う。今までの計画は役所が作って示す、上位下達のものであった。この計画を作ることも、計画を実行することも行政のみで行うのではなく、市民の皆さんと一緒にこのまちを作り上げていく、行政もその取組みを望んでいることを述べていただきたい。市民が親しみを持っている、目線で作る計画としていただきたい。

委員

既に、市民の中に行政が入って色々なことを一緒に取り組んでいる、これは良いこと。行政だけでなく、民間や市民とともに取り組んでいることを何かよいキャッチフレーズに表してはどうか。「市民のためのまちづくり」、「市民とともに考える」などの文言が入っていると親しみを感じられる。

上からできたものをただおしつけるのではなく。

会長

大事な視点である。第四次総合計画後期基本計画策定時にも「行政から市民が何をしてもらうのではなく、行政に私たち市民が何をすべきか」を述べたが、この考えが問われる時代を先見的にみた第五次総合計画が必要ではないか。

この点を重点に計画に示していただきたい。

委員

基本構想骨子案の4の基本目標の中に6つの大きなテーマを示している。また、これまでも様々な多くの事業を実施しているが、これからの人口減少・高齢化の社会の中、須坂市の特徴となる柱となる事業が必要だと思う。産業のまちづくりや文化創造などの取組みの中でも、「須坂はこれだ」、「須坂に来るとこれがある」といった何か年間を通してなど柱となるような事業を取組むことによりアピールできるのではないかと感じた。

人口減少、高齢化の進行の中、須坂の特徴となる柱の事業が必要。何か大きな柱の事業を育てられれば良いと思う。

会長

皆さんのご意見にもある市長がすすめている「共創」の理念が、もっと各所にちりばめられるべき。わかりやすく説明され、地域・まちをどう作っていくか方向性が示される計画にすべき。それには、各委員の皆さんのご意見を取り入れ、血の通った計画にしていければと思う。

委員

全体の方向性に異論はない。

述べるべき内容は、先ほど委員の皆さんからの出された、市民が取り組める計画という点。

最近良くある話で、行政はなんでも屋で、穴が開いたから直してくれ、猫の死骸を片づけてくれということではなくなってくるべき。政権が変わり、時代も変わりはじめてきた。今後は、民間でも行政でもない、公が再び自治体を取り戻さなければたちいなくなってくる。今後益々必要となる、この「公」という考え方が読み取れる計画にしていきたい。

会長

本日の協議事項は以上です。

④ その他

政策推進課長

次回開催予定について、次回第3回目の会議を12月中、12月14日以降を予定したい。事務局より追って日程調整をさせていただく。

⑤ 閉会

終了 午前10時40分

以上